

つなぐ



伝わる三つ折りリーフレットで 活動をより多くの人に伝えよう！

昨年、10月下旬から11月上旬にかけて、浦安市役所1階市民ホールにて開催された「うらやすNPOウィーク2023～市民活動に出会う日～」。会場を訪れた多くの方々は、入口付近に設置した三つ折りリーフレットコーナーで足をとめ、どんな団体があるのか確かめて会場を一回りする、あるいは展示を見終えた後で気になった団体のリーフレットを持ち帰る、そんな光景が数多く見受けられました。費用面、作成にかかる手間、修正が難しいといった点もありますが、なかなかどうして、三つ折りリーフレットの健在ぶりを示していました。

市民活動団体にとって、活動を伝えるためのツールはいろいろあります。ホームページやSNSなど電子媒体のもの、チラシや冊子などの紙媒体のものなど。

とりわけ、三つ折りリーフレットはコンパクトにわかりやすく情報を掲載することができ、団体紹介、事業概要の紹介、寄付募集など、読み手に趣旨や目的、その思いまでもきちんと伝えることができる、いわば団体にとっての必須アイテムです。

コンパクトでわかりやすい

三つ折りリーフレットはA4サイズ、表・中面合わせて6ページ、これが一般的です。情報量としてはA4、2枚分が上限。情報量が多いことは詳しくて一見、親切に感じますが、読み手にかえって煩わしさを感じさせてしまうかもしれません。

提供する情報は、団体名や連絡先、URLやSNSのQRコード、あゆみや沿革、課題、活動の目的・思い、活動の詳細、会員募集など。読み手に対し、伝えたい情報、必要と思われる情報を予め三つ折り、6ページに分けて整理して届けるものです。そのため、大変わかりやすいものになっています。

団体らしさが伝わる

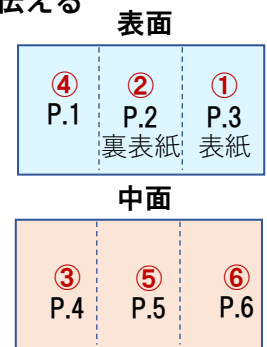
他の媒体との関連性を持たせて、団体のイメージカラーやロゴを使います。するとリーフレットを手にとった人は「あっ！見たことがある」「この団体、知っている！」と一気に団体との距離感が縮まります。そして、三つ折りを開き、詳細について文字だけではなく、イラスト・写真・チャートなどの画像で、より具体的な活動について理解することができます。字体を工夫することで団体のイメージにつながりますね。

ストーリー性をもたせて伝える

三つ折りリーフレットの特長として、ページを開くことによって見る順番がほぼ決まり、そこにストーリー性が表現されます。③から⑥までページを開くと起承転結というように。

また、文字や画像の配置、その大きさ、さらに伝えたい優先順位も決まります。

その結果、バラバラに情報が提供されるのではなく、一定のルール、ストーリー性を持たせることで、情報が読み手にきちんと伝わるのです。

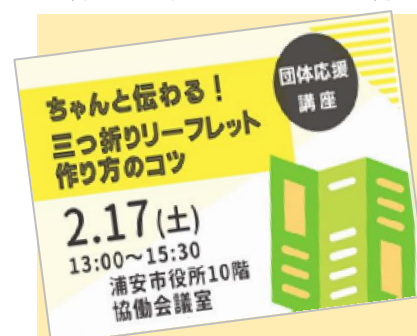


①～⑥ 見る順序

ご挨拶代わりにリーフレットをどうぞ！

自己紹介の際など、まずリーフレットを手渡し、それを見てもらいながら団体について説明することがよくあります。相手が興味を示し、さらに詳しい情報、写真や動画、更新頻度の高い情報を知りたいと思ったとき、ホームページやSNSに飛んで情報を得ることができます。

リーフレットは、いわば「はじめに訪れる窓口」とも言えます。さまざまなツールの特長を活かし、上手に組み合わせ伝えていくことが何より大事ですね。



団体応援講座のご案内

講師：小さなNPOを応援する
グラフィックデザイナー
はやしだまさひろ
林田 全弘 さん

参加費：無料

定員：30名
(要申込、先着順)

申込：電話、FAX、Eメール
直接にて

個別相談会あり

市民活動サロン 「子どもの居場所」を開催 いま必要とされる子どもの居場所は

12月9日(土)、まちづくり活動プラザにて「市民活動サロン」(以下サロン)を開催しました。

サロンとは、テーマに関係する団体が集まり、ざっくばらんに話を進めながら、意見、アイデアを出し合う場。

今回のテーマは今、求められている「子どもの居場所」。子どもに関連した分野の5つの市民活動団体の代表のみなさんに元小学校長の市民の方にも加わっていただきサロンを進めていきました。



得意を自信に

子どもにとっての『居場所』とは、それぞれが安心して、自分らしくふるまえ、心地よく過ごせる空間のこと。『居場所』となるのは、家庭や学校、地域などいろいろです。

まず、最初に子どもが一番長い時間を過ごす学校での居場所について。学校が居場所と思えるには、こども一人一人が自信を持てる環境が必要です。子どもたちが“得意なこと”やその活躍をみんなの前でほめたり、それぞれの活躍の場を作るなどして、得意を自信につなげてあげることが大切です。

元小学校の校長でもある参加者の一人も「勉強が苦手なら、別のことで頑張ればいいよ」と子どもたちに声かけされたとのこと。“学校が楽しい！朝が来て早く学校に行きたい”と思う子どもが増えることを目指して子どもたちと接してこられたそうです。ただ、大勢の子どもたち一人一人に学校だけで対応するのは時間的に難しいのが現実。それを踏まえて団体のみなさんは「例えば学校以外でも友だち

今回集まっていたいただいた団体から2つの団体～活動歴30年のベテラン市

寄り添いながら子どもと大人の居場所を支える ～家族・子育て相談室「ゆずり葉」～

家族・子育て相談室「ゆずり葉」(以下「ゆずり葉」)では、不登校や行き渋りの子どもやその家族に対して心理士がカウンセリングを行い、会員同士で支え合う「不登校・親の会☆Wish」を設け居場所づくりをサポートしています。会の立ち上げ以来30年間「ゆずり葉」の代表を務めてこられた臨床心理士の後藤弘美さんにお話を伺いました。

■立ち上げのきっかけ

「ゆずり葉」を立ち上げたきっかけは、後藤さんご自身のお子さんの不登校でした。当時通っていたカウンセリングは傾聴中心。それ以上に不登校の複合的要因や具体的な対応法を求めていた後藤さんは、ご自身で家族療法や認知行動療法を学び、自分の考え方や家族関係・親子関係を見直し再登校に取り組みました。その後、不登校の子どもと親たちと更に色々な心理療法を学び、心理士の資格を取得した母親6人が平成5年に「ゆずり葉」を開設しました。カウンセリングの際には、後藤さんご自身の不登校経験も話すことで相談者が安心してくださるそうです。

■カウンセリングで工夫していること

近年では市民のライフスタイルに合わせ、土日祝日の相談や、Zoomや電話でのカウンセリングなど柔軟に対応されています。

不登校の原因は一つではなく、子どもも親も多忙で疲労し心身の不調を抱えていたり、学校でのトラブル、集団生活で

のストレス、家族関係の不和や経済的不安、ワンオペ子育て、祖父母の問題などが複合的に関係しているケースが多いそうです。そのため「ゆずり葉」では、子どもだけでなく家族全体に焦点を当て相談者の人生をより良くするために、利用可能な制度や医療・学習の他機関も紹介しながら、相談者が取り組める問題から解決へと介入していきます。

全ての問題が解決せずとも、そのうちのいくつかが改善や解決することで家族全体のストレスが減り、夫婦や親子の関係や家庭環境が良くなり解決する方向へと進むことが多くあります。

■「ゆずり葉」が目指すもの

市民活動団体が家庭や学校と共に手を取り合って「地域の子どもたちを地域で育てる」のが理想と話す後藤さん。「ゆずり葉」は不登校や行き渋りのカウンセリングを専門としていますが、ゆくゆくは「市民活動団体が連携してそれぞれの得意分野を活かして子どもや家族を多方面から支援できる総合的なサポート体制のような事業を実現させたい」と語り、複数の市民活動団体で情報交換をする機会の大切さを実感されていました。



不登校・行き渋りは子どもだけに関わる悩みとして捉えるのではなく、親自身や家族のことなど、広い視野をもって捉えることの大切さを知りました。市民活動団体が協力し合い、子どもたちを広い視野から支え、一人ひとりの悩みがすぐに届くような仕組みが実現できるよう、市民活動団体同士の交流がより活発になることを願っています。

(市民ライター 武田 めぐ)

と一緒に得意なことや好きなことをして過ごせる場があり、そこでも周りの大人が子どもに声掛けし、自信を持たせてあげる。そんな居場所を地域で運営したいね」と話し合いました。

家庭での居場所 ～大人がゆとりを持てるようサポートを

子どもが家庭を『居場所』と感じるには、ありのままの自分を受け入れてもらえることが必要です。団体のみなさんが関わる中でも、家庭環境に問題があるなど感じる子は、かえって家ではいい子としてふるまっている場合がまま見られるそうです。でも、それは決して親が悪いということではありません。親に時間的・精神的なゆとりがあつてこそ、子どもたちに対して親身に向き合えます。ところが、仕事や子育て、場合によれば介護、そしてコロナ以降、経済の困窮と大人を取り巻く環境も厳しくなっています。参加者の一人からの「親向けに悩み事などを語り合う会を開いていますが大盛況です」との言葉のように大人も助けを必要としています。子どもが過ごしやすい環境を整えるには、大人に対するケアも、市民団体に同時にサポートしていくことが大切だとわかりました。

つながって子どもたちの居場所を作る

最後に子どもにとって、地域にどんな『居場所』があればいいのかを考えました。「何をやるわけでもないけど、リラックスできる場所。スポーツでも、音楽でも好きなことができる場所。食べる事って楽しいしホッとすると、だからお菓子や食事でも提供できるといいよね」と意見が交わされました。また、その存在をどのように広く伝えていくか、これも大事なポイント。そのためには、若い人が運営している団体や子育てサポートの活動をしている団体など、子どもやその親に近い団体とつながりたいとの声がありました。より多くの団体と活動し続け「地域で作る居場所」が子どもたちを支える社会のシステムのひとつになっていくといいですね。

まずは、今回のサロンのメンバーが、それぞれの得意な分野を活かしながらつながり合うことができたなら、居場所作りに一歩近づけそうです。

【参加者】

後藤 弘美さん（家族・子育て相談室「ゆずり葉」）
高嶋 賢一さん（一般社団法人 スマイルこども食堂浦安）
山田 順子さん（こんな学校にしたい会）
寺田 いつ子さん（ENJOY CAP）
佐原 光さん（浦安おもちゃの広場）

民活動団体と活動開始間もない30代の若い世代の団体～をご紹介します

子どもたちが遊びながら成長できる居場所づくり ～浦安おもちゃの広場～

「浦安おもちゃの広場」は2023年5月に市民活動団体としてスタート。代表の佐原光さんは「三度の飯よりボードゲームとおもちゃが大好き！」で、遊びや地域交流を通して子どもたちが学び成長する機会を提供しています。

■活動をはじめたきっかけ

佐原さんは高校生の頃からボランティア活動に参加し、大学卒業後も教育を軸にして社会経験を積み、開発途上国にて数学の教師として現地の教育に貢献した経験もあります。海外に出たことで貧困などの社会課題を目の当たりにし、世界に対してアクションを起こしたいと考えようになりました。一方、教育の魅力や意義を実感していたことに加えて、自分ひとりがアクションを起こしてもその影響範囲は限られているので、世界に対して主体的に行動できる次世代を育てることがより大切との思いから、「浦安おもちゃの広場」の活動を始めました。

■活動の中で大切にしていること

子どもたちの主体性を引き出すためには、子どもたち自身が「楽しいからやってみよう!」と思うことが大切です。子どもの頃にいろいろな楽しい体験を積むことによって、大人になった後も、様々な物事の中に自ら楽しさを見出すことができるようになります。「浦安おもちゃの広場」は子どもたちに対してボードゲームやおもちゃでの遊びを通してどんな状況でもその中に楽しみを見出し、主体的な行動

の原動力「やってみよう」の気持ちを育む場をつくっています。

■今後、目指していきたいこと

今後は未就学児や小学生だけではなく、中高生も含めた幅広い世代の子どもたちや親子の居場所にしていくことを目指し、普段は知り合うことのないような人との出会いの機会や、子ども同士のつながり、親同士のつながりをつくっていききたいとのこと。また、他団体との連携においては、これまでは子どもの遊びに関連する団体を巻き込んで共にイベントを開催してきましたが、今後は幅広いジャンルの団体とも協力しながら浦安の街をもっと面白くしていきたいそうです。



佐原さんは「子どもたちの目線に合わせられるように、今の子どもたちが興味を持っているものに対して自分も興味を持つことを心がけ、例えば小学生の間で流行っているゲームなどがあれば実際にやっている」とのことです。

「子どもたちに心を開いてもらうためには、対等な立場だと感じてもらうことが大事」という言葉から、子どもたちが安心して過ごせる時間をつくるために心を尽くした配慮や工夫をされているのが伝わってきました。ボードゲームは子どもも大人も一緒になって楽しめるので、「浦安おもちゃの広場」は市民のみんなに開かれている居場所のひとつですね！

（市民ライター 西橋 友理）

▶運営メンバー募集中！ ボードゲーム好きの方や子どもの教育に興味がある方などぜひお問い合わせください。
E-mail urayasu.toycon@gmail.com

もっと“まち”を楽しもう！
多世代交流・地域交流イベントを開催します

浦安市市制施行40周年記念 「まちづくりフェスタwith」

市民のみなさんと一緒に、市民活動団体と一緒に！
みんながつながる楽しいイベントwithを今年も開催します。

日時：3月17日（日）10時～16時

**場所：浦安市まちづくり活動プラザ
（浦安市入船5-45-1）**

**内容：展示、展示＋ミニワークショップ
ワークショップ、販売、飲食コーナーなど**



まちづくりフェスタwith（2023.3.19）

参加団体説明会のご案内

「with」開催にあたり、下記の通り説明会を開催します。参加団体のみなさんは必ずご参加ください。

日時：1月21日（日）10時～11時30分

場所：まちづくり活動プラザ 第1多目的室

センターホームページ マイメディア（団体専用ページ）作成のお願い

広報活動の一環として、みなさんにご活用いただいているセンターホームページ。
トップページから ①団体を探す → ②一覧へと進みます。



- ③探している団体を検索すると
- ④団体（団体の紹介）が出てきます。

💡この際に、みなさんからの書き込みがないと、システム上の都合で「現在、こちらの情報はございません」と表示されてしまいます。これでは、活発に活動しているのかと、見る人を不安にさせてしまいますね。まだ団体の紹介がお済みではない団体は、早い機会に掲載をお願いします。また、マイメディア（団体専用ページ）に画像も入れていただくと、より団体の雰囲気も伝わります。なお、操作方法がわからない方はセンターまでお問い合わせください。

センター会議室の空き状況の確認について

会議室の空き状況を、ホームページにてご確認いただけるようになりました。今後も会議や研修等にご利用ください。

※予約状況は前日（前日が閉館日の場合は最終開館日）の17時の状況になります。既に予約が入っている場合もありますので、ご注意ください。



センター日誌より

センターでは、みなさんからイベントチラシや三つ折りリーフレットをお預かりし専用ラックに並び、立ち寄りの方に情報提供しています。すでに三つ折りリーフレットを作成している団体で、まだセンターまでお持ちいただけない団体は、ご提供をお願いします。

これから年度末に向かい、ボランティア相談も増えまくる季節。相談窓口では多くの情報を用意しみなさんをお待ちしています。

問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2024年1月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)
TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

